

アロマリセット

リ サ・主人公、すぐ調子に乗るタイプ  
母 親・母親、仕事できる系の人  
美 鈴・妹、ほぼ泣いている  
近 所・近所の人、嫌味な感じ  
有名人・何かの有名人、堂々とした感じ

1 1日目の朝・家のリビング 1

◆テレビを見ながら泣いている美鈴。手には畳まれた新聞。テレビには復帰記者会見中の有名人。

美 鈴『よかったねえ、よかったねえ。』

◆リサがやってくる。朝から泣いている美鈴に引く。

リ サ『おはよう……何で泣いてんの？』

美 鈴『だって、やっと復帰したんだよ。』

リ サ『え？何した？』

美 鈴『ずっと活動停止してたけど、やっと復帰したの。（泣きながら新聞を渡す）』

リ サ『この人誰？なんの人？』

美 鈴『！……なんで知らないの。』

有名人『もうダメだと思ったことは何度もありました。でも、人生はいくらでもやり直せます。ただ多くの人がそれを信じられず、試そうとしないだけです。』

リ サ『ふーん。偉そうなこと言っちゃって。』

有名人『活動停止中はアロマテラピーを始めました。人生をやり直すきっかけになったと

リ サ『アロマで人生変わるかっての。』

有名人『……ええ、そうです。大切なのは信じる心ですよ。』

◆リサ、新聞を美鈴の近くに落とす。すぐに回収する美鈴。そこに母親がやってくる。

母 親『おはようリサ。今週の土曜日だけど、よろしくね。』

リ サ『え、何？』

母 親『遅くなるから美鈴の夜ご飯お願いって言ったじゃない。』

リ サ『えー。聞いてない。』

母 親『もう。忘れっぽいんだから。』

リ サ『ねえ、お弁当まだ？』

母 親『お弁当箱を会社に忘れたのはアンタでしょう。お母さん今から会議だから、悪い

けど朝ご飯はコンビニで済ませてね。じゃっ、行ってきます。』

◆母親、ハケ

リサ『ちょっと、お母さん……今からコンビニって。』

◆リサ、安物のアナログ腕時計を見て時間を計算する。

リサ『ヤバイ、行ってきましたす！』

◆リサ、バッグを持って慌ててハケ。美鈴、新聞を持って泣きながらハケ。

ー 1日目の朝・駅までの道 ー

◆交差点。近所の人歩いてきて信号で立ち止まる。その後ろからリサが早歩きで追い抜こうとする。

近所『あら、リサちゃん。おはよう。』

リサ『あ、おはようございます。』

◆リサ、一瞬立ち止まるが、先を急ごうとする。しかし近所の人に服を掴まれる。

近所『ちょっと聞いてよー。ウチの旦那ったらさ、昨日も飲みに行ってたのよ。会社の同僚と2人でくなんて言ってるけど、本当は他所に女がいるんじゃないかって思うの。リサちゃんどう思う？』

リサ『は、はあ。』

近所『最近ずーっと携帯いじってるしさあ、ぼーっと思ってると思ったら携帯見てニヤニヤしてんの。もう絶対怪しいでしょー？』

リサ『すいません。ちょっと急いで…』  
近所『リサちゃんも彼氏の浮気には気を付けなきゃダメよ？そりゃあウチの旦那だって付き合い始めた時はすごい優しかったんだけどね。あの頃は私、愛されてるなーって感じだもんよ。あ、ごつめーん。リサちゃん彼氏いないんだっけ。じゃあ私は悩めるだけマシか。ははは。』

リサ『あの！』

近所『やだ私ったら、朝からこんな話されても迷惑よね。あ、信号変わった。じゃーねー。』

◆近所の人、リサとは違う方向に進んでハケ。信号待ちをする羽目になったリサ。近所の人を見ながら舌打ち。

リサ『あーもう。急いでるのに。』

◆信号が変わり、早歩きでハケ。少ししてコンビニ袋を持って早歩きで戻ってくる。時間を気にしている。

リサ『やばいやばい。』

◆元来た方向へ早歩きでハケ。が、しばらくすると走って戻ってきてそのままコンビニにハケ。またしばらくしてバッグを持って戻ってくるが信号に捕まる。踏切の音が鳴る。

リサ『嘘！待って。待って待って待ってー。』

◆走ってハケ。暗転

ー 1日目の夜・家のリビング ー

◆仕事を終えて、ぐったりしているリサ。〰人分の飲み物を持って母親がやってくる。

母親『お疲れさま。仕事、大変なの？』

リサ『今日も怒られた。』

母親『そう。何かミスでもしたの？』

リサ『電車に乗り遅れて遅刻したの。』

母親『え、ごめん。コンビニ行かせたから？』

リサ『違う。近所の人に捕まったり、お店にバッグ忘れたり…』

母親『また忘れ物したの？』

リサ『もういいじゃん。お母さんまで怒らないですよ。』

母親『ごめんごめん。』

リサ『美鈴は？』

母親『泣き疲れて寝てる。あ、そうだ。』

◆母親、ポケットからアロマグッズを出す。

母親『これ。美鈴から貰ったんだけど、今日はリサが使いな。いい匂いで落ち着くん  
だって。』

リサ『アロマ？』

母親『そうよ。あの……今日記者会見してた人が使ってたやつだって。』

リサ『ああ。』

母親『人生をやり直せるらしいわよ。ははは。じゃあおやすみ。』

◆母親、ハケ。リサ、アロマグッズを見る。

リサ『ホントだったらいいのにな。』

◆リサ、ハケ。

ー 2日目の朝・家のリビング ー

◆テレビを見ながら泣いている美鈴。手には畳まれた新聞。テレビには復帰記者会見中の  
有名人。

美鈴『よかったねえ、よかったねえ。』

◆リサがやってくる。

リサ『おはよう…え？』  
美鈴『やっと復帰したんだよ。』

リサ『まさかね…』  
有名人『もうダメだと思ったことは何度もありました。でも、人生はいくらでもやり直せます。』

リサ『ただ多くの人がそれを信じられず、試そうとしないだけです…。』

美鈴『よかったねえ、よかったねえ。』

リサ『ねえ、今日って何日？』

美鈴『うううう。』

◆リサ、新聞を取り上げて日付を見る。

有名人『活動停止中はアロマテラピーを始めました。人生をやり直すきっかけになったと思っています。…ええ、そうです。大切なのは信じる心ですよ。』

リサ『アロマで人生…変わったかも。』

◆母親がやってくる

母親『おはようリサ。今週の…』

リサ『土曜日、遅くなるんだよね？』

母親『あら、覚えててくれたのね。』

リサ『すごい。アロマすごい。』

母親『どうしたの？』

リサ『なんでもない。当たり前でしょ？美鈴のことは私に任せて。』

母親『よろしくね。それと悪いんだけど…』

リサ『急いでるんだよね？私コンビニ寄って行くから、じゃあ行ってきます。』

◆リサ、バッグを持ってハケ。首をかしげる母親と、泣いている美鈴もそれぞれハケ。

1 2日目の朝・駅までの道 1

◆リサがやってきて信号待ちで立ち止まる。後ろから近所の人の小走りで行ってくる。

近所『あー間に合わなかった。あら、リサちゃんおはよう。』

リサ『おはようございます。』

近所『ちよつと聞いてよー。ウチの旦那ったらさー。昨日も飲みに行ってたのよ。』

リサ『あら、大変ですねー。もし同僚と2人で、なんて言いしたら危険信号ですよ。』

1人で携帯見てニヤニヤしてたりしたらもうアウトです。奥さんより携帯に夢中なんてことになったら、もう愛されてないかもしれないですね。あ、ごめんなさい。もしそんな男だったらこっちから願ひ下げですよー。じゃっ、お仕事頑張ってください。』

◆呆然とする近所の人を残して歩き出すリサ、そのままハケ。しばらく目で追ってから電話を始める近所の人。

近所『ねえ、私のこと愛してる？なんで？愛してるなら言えるでしょ？今言つて。お願いだから愛してるって言つて。』

◆近所の人、電話をしながら元の方向にハケ。少し間を空けて戻ってくるリサ。コンビニ袋とバッグを持っていることを確認する。

リサ『よし。(腕時計を見る)余裕で間に合う。大丈夫、大丈夫。』

◆元来た方向へ歩く。ハケる手前で雨が降ってくる。

リサ『え？なんで？今日は1日晴れだったのに。』

◆雨が強くなる。

リサ『ちよつとちよつと、おかしいって。』

◆慌ててコンビニに傘を買いに戻るリサ。コンビニ袋とビニール傘を持って腕時計を見ながら早歩きで戻ってくる。

リサ『やばいやばい。』

◆元来た方向へ早歩きでハケ。少し間を空けて走って戻ってくる。そのままコンビニにハケ。バッグを持って戻ってくるが信号に捕まる。踏切の音。

リサ『嘘！待って、待って待って待ってー。』

◆暗転

1 2日目の朝・その頃の家のリビング 1

◆テレビを見ながら泣いている美鈴。手には畳まれた新聞。雨に濡れた母親が新聞を持ってやってくる。

母親『美鈴、雨が降る前に新聞入れといてって言ったじゃない。』

美鈴『ごめん。』

母親『いつまでもテレビ見てないで、早く学校行きなさいよ？お弁当、ここに置いてくからね。』

美鈴『2つあるよ？』

母親『リサが持つて行かなかったのよ。新聞もリサに頼もうとしたんだけど、なんか急いでるみたいだったし。……あれ？このニュースって昨日もやってなかった？』

美鈴『うん。録画したの。』

◆呆れる母親。暗転。幕。